

オープンソースデータベース PostgreSQL の現状と活用成功例のご紹介研修報告

2010/03/22 中村 佳介

「多くのユーザに使われているオープンソースデータベース「PostgreSQL」のご紹介」というセミナーに参加してきた。そこで得た情報について記述する。

データベースについての解説と、「PostgreSQL」の歴史・開発体制・シェア・スペック・搭載機能・技術者教育の説明が行われた。「PostgreSQL」がログを用いたロールフォワードリカバリ、巨大化したデータベースの分割保存、数百ユーザ同時アクセス、数百 GB のデータ管理が可能である事など、スペックが大企業レベルの要求に対応可能であること、近日中に新バージョンが公開され、その後も ISO で規定されている SQL 基本機能の実装に向けた開発が継続して行われることなどが紹介され、「PostgreSQL」が将来においても有効なデータベースであることが紹介された。

現在と将来のコンピューター業界におけるデータベースの重要性と、未来に生き残るデータベースに必要なモノは何か?というテーマでクラウドコンピューティングとクラスタ化について解説。その後、「PostgreSQL」のクラスタ化支援ソフト「Slony-」「Pgpool-」と、DB 管理用ツールの機能紹介、各ソフト個別の機能と「Slony-」「Pgpool-」を同時に使用した場合のシステム動作等を説明し、それらのシステムが実際に稼働しているホームページの紹介が行われた。一例として某旅行代理店のホームページでは表示コンテンツと会員情報を物理的に別のマシンで管理、それぞれのマシンをクラスタ化したシステムを半年で構築されたことが紹介され、「PostgreSQL」を用いたシステム開発が商用 DB と比較してもコスト的に劣る部分はない事が紹介された。

「PostgreSQL」 + 「Slony-」 + 「Pgpool-」が稼働している状況でクラスタ化された DB に障害が発生した場合、待機していた DB が接続され稼働を継続できることの動作デモが行われた。

質疑応答では顧客や(質問者の)社内では、まだフリーソフト全般に対する信用が薄いことについて質問があった。講師は『系統だって学習できる機会が少ない』『メーカーのサポートがない』というの OSS 全般の課題であるが「PostgreSQL」は有償再配布が可能、という利点を使用したパッケージ製品が販売されておりサポートは可能であると考える。また、技術者教育についても資格試験を開催しているので対応できていると考えるとの応答を示した。

もうひとつの質疑応答で同じ SQL ソフトである「MySQL」のシェアが強いことに対する意見を求められた。講師側は、「統計では『MySQL』のシェアは下降し、その分『PostgreSQL』のシェアが上昇している。楽観はできないがシェアの逆転も可能であろうと考えている」との見解を示した。

以上がセミナーで聞いてきた PostgreSQL の現状と活用成功例の内容になる。

穿った見方かもしれないが、講師の方が「PostgreSQL」を立ち上げたメンバーであるためか、現状のライバルであるはずの「MySQL」との比較を行なわず、自社製品のセールス・売り込みに終始していたようには感じられたが、内容としては OSS・データベースの将来性や導入事例・構築例など幅広い知識を学ぶことができ、とても参考になるセミナーであったと感じられた。

以上